

# 資料 4 - ( 3 )

## 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」総会 意見交換テーマシート

団体名：三重県市長会（名張市）

意見交換テーマ	国の「G I G Aスクール構想の実現」に向けた児童生徒 1 人 1 台端末の整備事業について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家プロジェクトとしての学校 ICT 環境整備が進められる中、今回の「G I G Aスクール構想の実現」に向けた児童生徒 1 人 1 台端末の整備事業（以下「G I G A構想」）においては、地方財政措置分の児童生徒数の 1 / 3 台を越える 2 / 3 台分が国からの補助対象となっています。</li> <li>・ 端末は導入しても年月が経てば更新をしていく必要があります。丈夫で学習に使いやすく、さらには端末価格やメンテナンスが安価な機種を選定することが必須です。（安価な端末の調達）</li> <li>・ 文部科学省の説明によると「G I G A構想」の端末整備事業のスキームでは、県の役割として、市町の希望のとりまとめや、市町横断の統一的な仕様への調整、県と市町が協力しての一括調達の実施が示されています。（県一括調達）</li> <li>・ 今回の G I G A 構想の目的は、端末の整備をすることではなく、いかに活用するかということにあります。保守等の補助がないとのことですが、児童生徒が使用するという観点から、不具合や故障等が頻発するという視点が必要であり、その対応を教師に担わせることは本来の目的ではありません。（保守の必要性）</li> <li>・ また、児童生徒全員が端末を運用することになれば、例えば県庁や市役所等に「情報システム」等の専門部署があるように、管理・メンテナンスは確実に必要になりますが、学校現場にはその人員とノウハウはありません。これを各学校や市町ごとに対応できる環境が必須です。（管理・メンテナンスの必要性）</li> <li>・ 共同で大量購入することによって単価が下がり、その差額によってシステムの運用や保守にあてられるように考えていくことが必要です。文部科学省の説明によると、近隣の奈良県では県が一括調達の仕組みをとっている例示がありました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協議していただきたいポイント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各市町が「使いやすく」「安価」で「安定」した端末の運用、導入をするには。</li> <li>・ 市町により導入済みの OS に違いがあるが、国が示す 3 OS ごとに県が集約していただき、合同での端末調達や、合同での保守・システム運用（委託）ができないか。</li> </ul>